

令和3年10月6日	
所 属	文化振興担当
所属長	松長 昌男
電 話	06-6489-6385

A-Lab Exhibition Vol.30

「これまでとこれからのかわるものとかかわらないものの日常の近未来」を開催します！

1 趣旨

この度、あまらぶアトラボ「A-Lab」（えーらぼ）では、展覧会「これまでとこれからのかわるものとかかわらないものの日常の近未来」を開催します。

新型コロナウイルスは私たちの日常を変えました。“新しい日常”と言われるようになった暮らしが、いつの間にか意識を変え、新しい基準を作り、私たちはこれまでと違う行動をするようになりました。ですが、漠然と“変わっていく”感覚はあるものの、実は誰もこの先がどうなっていくかということは分かりません。本展では、河野愛、さわひらき、玉山拓郎の3人の作家が、日常に溢れるものや、身近に存在しているもの、記憶等様々なモチーフから、そんな近未来に思いを馳せたインスタレーションを展開します。すぐ先のことが見えにくくなっている中で、SF的な視点とは違う「近未来」。私たちの身の回りで、これまでとこれからで価値観が変わっていくもの、いつまでも変わらないものなどを感じて下さい。

また、新型コロナウイルス感染症の感染防止策として、別紙1のとおり対策を行い展覧会を開催します。ご理解・ご協力の程よろしくお願いいたします。

2 概要

会 期：令和3年10月23日(土)から令和3年12月12日(日)

会 場：「A-Lab」（えーらぼ） 尼崎市西長洲町2-33-1

時 間：(平日) 午前11時～午後7時 (土・日・祝) 午前10時～午後6時

※火曜日休館（この日が祝日の場合は、その翌日）

入場料：無料

出展者：河野愛、さわひらき、玉山拓郎

問合せ：尼崎市文化振興担当（土日除く午前8時45分から午後5時30分）

電話 06-6489-6385 FAX 06-6489-6702

主 催：尼崎市 協 力：ベイ・コミュニケーションズ

3 関連イベント

兵庫県立美術館の小林さんを進行役に迎え、トークイベントを実施する予定です。

日時：11月28日（日）15時から

場所：あまらぶアトラボ「A-Lab」

定員：先着15名（申込必要）

申込はメールか電話、ファクスにて10月23日から受付。

メールアドレス：amalove.a.lab@gmail.com

電話/ファクス：06-7163-7108

氏名・年齢・電話番号・人数を明記またはお伝えください。

※新型コロナウイルスの感染状況によっては、イベントを延期・中止、実施方法を変更することがあります。

4 作家略歴

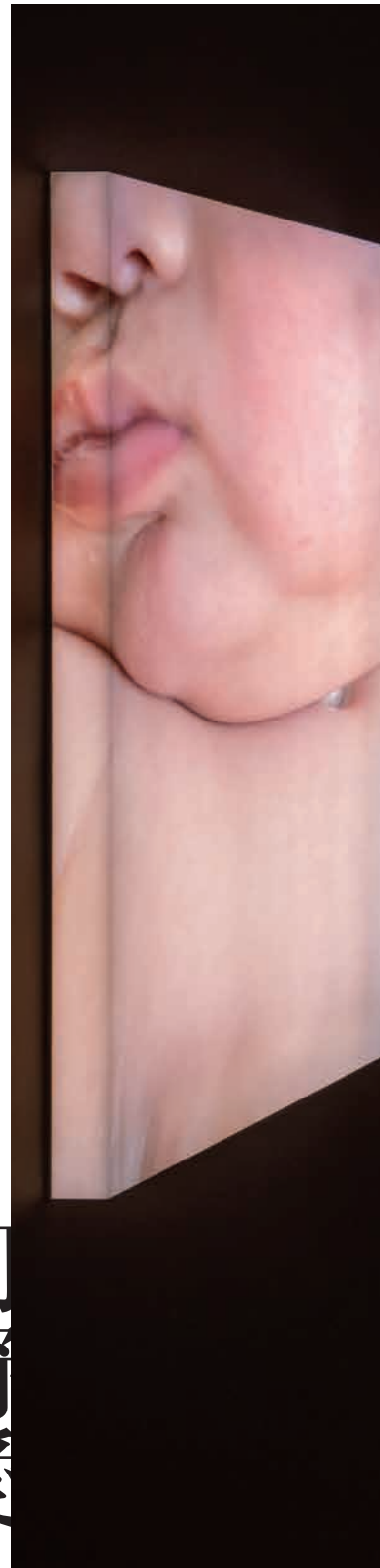
別紙2参照

以 上

2021年10月23日～12月12日

A-Lab
Exhibition
Vol.30

これまでとこれからのかわるものとかわらないものの日常の近未来



河野愛

《ことの foreign object (部分)》2021
photo: 葵生田兵吾



さ
わ
ひ
ら
き

《/home (部分)》2021



玉
山
拓
郎

《Anything will slip off / If cut diagonally (部分)》2021
photo: 大町晃平

これまでとこれからの
かわるものとかわらないものの
日常の近未来

これまでとこれからのかわるものとかかわらないものの日常の近未来



①河野愛《こともの foreign object》2021(photo: 麥生田兵吾)
 ②さわひらき《/home》2021
 ③玉山拓郎《Anything will slip off / If cut diagonally》2021 (photo: 大町晃平)

A-Lab で第 30 回目の展覧会「これまでとこれからのかわるものとかかわらないものの日常の近未来」を開催します。新型コロナウイルスは私たちの日常を変えました。“新しい日常”と言われるようになった暮らしが、いつの間にか意識を変え、新しい基準をつくり、私たちはこれまでと違う行動をするようになりました。でも、漠然と“変わっていく”感覚はあるものの、実は誰もこの先がどうなっていくというのわかりません。本展では、河野愛、さわひらき、玉山拓郎の3人の作家が、日常にあふれるものや、身近に存在しているもの、記憶などさまざまなモチーフから、そんな近未来に思いを馳せたインスタレーションを展開します。すぐ先のことが見えにくくなっている中で、SF 的な視点とは違う「近未来」。私たちの身の回りで、これまでとこれからで、価値観が変わっていくもの、いつまでも変わらないものなどを感じてください。

これまでとこれからの かわるものとかかわらないものの 日常の近未来

2021年10月23日(土)～12月12日(日)
 月・水～金 午前11時～午後7時
 土・日・祝日 午前10時～午後6時
 (火曜日休館、11/23 火[◎]開館、11/24 水休館)
 入場料無料

主催 尼崎市
 協力 Baycom



河野愛
Kawano Ai

1980年、滋賀県生まれ。2007年京都市立芸術大学大学院 美術研究科 染織 修了。在学中に Royal College of Art 交換留学。現在、京都芸術大学 美術工芸学科専任講師。染織やテキスタイルを制作におけるルーツとし、陶やガラス、布、収集した骨董、写真などを複合的に用い、場所や人の記憶や時間、価値の変化をテーマにしたインスタレーションを発表している。主な展覧会に、滋賀県立美術館 リニューアルオープン記念展「Soft Territory かかわりのあわり」(2021) など



さわひらき
Sawa Hiraki

1977年、石川県生まれ。高校卒業後渡英。2003年ロンドン大学スレード校美術学部彫刻科修士課程修了。ロンドン在住。自らの記憶と他者の記憶の領域を行き来する反復運動の中から、特定のモチーフに光を当て、そこにある種の普遍性をはらむ儚さや懐かしさが立ち上がってくる作品群を展開している。主な展覧会に、Memoria paralela (Museo Universidad de Navarra・スペイン /2021)、「Latent Image Revealed,」神奈川芸術劇場(横浜 /2018)など。五島記念文化賞受賞(2010)



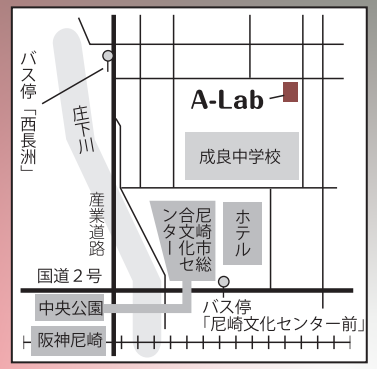
玉山拓郎
Tamayama Takuro

1990年、岐阜県生まれ。愛知県立芸術大学を経て、2015年に東京藝術大学大学院修了。鮮やかな色彩の日用品や照明、映像を用いたインスタレーションを制作。ブラシ、モップ、皿、ソファなど多岐にわたるファウンド・オブジェクトと、独自のペインティングや映像の色調、モノの律動、音響を組み合わせることによって、緻密なコンポジションを持った空間を表現している。主な展覧会に、2021 Anything will slip off / If cut diagonally、(ANOMALY・東京 /2021) など

アーティストトーク 11/28 (日)

2021年11月28日(日)午後3時～5時、兵庫県立美術館の学芸員・小林公さんをゲストに迎え、出展作家とのトークイベントを開催します。定員15人。申込必要。詳しくは A-Labのホームページ、フェイスブックなどでお知らせします。

あまらぶ アートラボ **A-Lab**
 (尼崎市西長洲町 2-33-1)
<http://www.ama-a-lab.com/>
 問い合わせ先
 市役所文化振興担当 ☎ 06-6489-6385
 A-Lab ☎/FAX 06-7163-7108



A-Lab では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止策に取り組んでいます。ご来場の際に、マスクの着用や手指の消毒など、皆様のご協力をお願いいたします。取り組んでいる拡大防止策については A-Lab のホームページなどをご覧ください。

あまらぶアトラボ (A-Lab) における新型コロナウイルス感染症拡大防止策

【来場者へのお願い】

来場者へのお願いとして以下の内容を掲示します。

- ・咳エチケット、マスク着用、手洗い・手指の消毒をお願いします。
- ・咳・咽頭痛などの症状や 37.5 度以上の熱がある方、帰国後 2 週間以内の方の入場はご遠慮ください。
- ・エレベーターの使用は移動に制約のある方のみ使用していただくようお願いいたします。
- ・場内では間隔を広げてご鑑賞ください。
- ・鑑賞中に大きな声での会話はご遠慮ください。
- ・基本的に作品にはお手を触れないでください。直接手で触れることができる展示物は設置している手袋の着用をお願いします。
- ・資料、図書を閲覧する際は手袋の着用をお願いします。
- ・ご来場の際に、ご連絡先などをお伺いさせていただきます。
- ・検温機による体温の確認のご協力をお願いいたします。また、一定値以上の発熱がある場合は入場をお断りする場合があります。
- ・スタッフはマスクを着用して対応させていただきます。
- ・基本的に荷物のお預かりができません。大きなお荷物はスタッフにご相談ください。

【接触・飛沫感染防止対策】

(入口)

- 1 入口に消毒液を設置します。

(受付)

- 2 受付で兵庫県新型コロナウイルス追跡システムに登録できるようにする他、来場者の連絡先を記載してもらおう用紙を設置し、感染が確認された際に連絡を取れるようにします。
- 3 場内では間隔を広げてご覧いただくようお声掛けするとともに、フロアマーカを設置します。
- 4 配布物は手渡しで配布せず据置き方式とします。
- 5 受付に飛沫感染防止のためシールドを設置します。
- 6 検温機を設置して来場者の体温を確認します。

(ロビー等)

- 7 配布するチラシは見本を掲示し、希望者に個別にお渡しします。
- 8 連絡先の記載やアンケート記入に使用した鉛筆はお持ち帰りいただきます。
- 9 ポートフォリオ、図書コーナーの本の閲覧時に使用する使い捨ての手袋を設置します。

(展示室)

- 10 直接手で触れることができる展示物を鑑賞するための使い捨ての手袋を設置します。
- 11 展示室内は常時換気していますが、可能な限り展示室のドアや窓を開けて換気をします。展示上、ドア、窓を開ける事ができない部屋は 30 分に一回程度、展示室の換気を行います。

(その他)

- 12 手すり、ドアノブ、エレベーターのボタン、テーブルなどを適宜殺菌消毒します。
- 13 トイレの洗面に使い捨てペーパーを設置します。

【スタッフの健康管理】

- 1 毎日スタッフの検温を行います。
- 2 スタッフはマスクを着用し、手洗い・手指の消毒を徹底して実施します。
- 3 来場者への資料の配布、荷物の対応等の場合、手袋を着用します。

作家略歴

■さわひらき

1977年 石川県生まれ。高校卒業後渡英。
2003年 ロンドン大学スレード校美術学部彫刻科修士課程修了。
現在、ロンドン在住。



映像・立体・平面作品などを組み合わせ、それらにより構成された空間 / 時間インスタレーションを展開し、独自の世界観を表現している。自らの記憶と他者の記憶の領域を行き来する反復運動の中から、特定のモチーフに光を当て、そこにある種の普遍性をはらむ儚さや懐かしさが立ち上がってくる作品群を展開している。

【受賞歴】

2010 第22回五島記念文化賞
2006 Decibel Award for Artists
2002 East International Award

【主な展覧会】

2019 「Memoria paralela」、Museo Universidad de Navarra、スペイン・パンプローナ
2017 「Latent Image Revealed, KAAT Exhibition 2018」、神奈川芸術劇場、横浜
2014 「Under the Box, Beyond the Bounds」、東京オペラシティアートギャラリー / Art Gallery of Greater Victoria、東京 / カナダ・ビクトリア BC) など。

【主なコレクション】

Hirshhorn Museum and Sculpture Garden, Smithsonian Institute、ワシントン
Art Gallery of New South Wales、シドニー
国立国際美術館、大阪
東京都写真美術館、東京
金沢21世紀美術館、金沢 など。

作家略歴

■河野 愛（かわの あい）

1980年 滋賀県生まれ。

2007年 京都市立芸術大学大学院美術研究科染織修了。



在学中に Royal College of Art 交換留学。

大学院修了後、2017年まで広告代理店にてアートディレクターとして勤務。

現在、京都芸術大学美術工芸学科専任講師。

染織やテキスタイルを制作におけるルーツとし、陶やガラス、布、収集した骨董、写真などを複合的に用い、場所や人の記憶や時間、価値の変化をテーマにしたインスタレーションを発表している。

【受賞歴】

2018年 2018年度平和堂財団芸術奨励賞受賞など。

【主な展覧会】

2021 滋賀県立美術館 リニューアルオープン記念展「Soft Territory かかわりのあわい」、滋賀県立近代美術館、滋賀

2019 「Story teller 物語を紡ぐ」、アキバタマビ 21、

2018 「シガアートスポットプロジェクト Vol.1 散光 / サーキュレーション」、滋賀県立近代美術館、滋賀

2018 個展「in the nursery 逸話ではないもの」、ギャラリー崇仁、京都

作家略歴

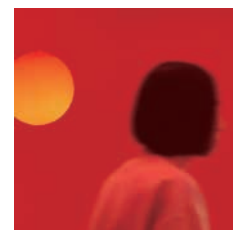
■ 玉山拓郎 (たまやま たくろう)

1990年 岐阜県生まれ

2013年 愛知県立芸術大学美術学部油画専攻卒業。

2015年 東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻油画研究分野修了。

現在、埼玉県を拠点に制作活動を行う。



鮮やかな色彩の日用品や照明、映像を用いたインスタレーションを制作。ブラシ、モップ、皿、ソファなど多岐にわたるファウンド・オブジェクトと、独自のペインティングや映像の色調、モノの律動、音響を組み合わせることによって、緻密なコンポジションを持った空間を表現している。

【受賞歴】

2015 ART AWORD TOKYO MARUNOUCHI 2015 後藤繁雄賞 (審査員賞)

2013 愛知県立芸術大学平成 24 年度卒業制作最優秀作品賞

【主な展覧会】

(個展)

2021 Anything will slip off / If cut diagonally、ANOMALY、東京

2020 3 plane shapes、T-HOUSE New Balance、東京

2019 The, Sun Folded.、OIL by 美術手帖

2018 Dirty Palace、CALM&PUNK GALLERY

(グループ展)

2021 「Natsuyasumi: In the Beginning Was Love」、Nonaka-Hill、ロサンゼルス、アメリカ

2021 「3人のキュレーション「美術の未来」」、渋谷ヒカリエ 8/CUBE 1, 2, 3、東京

2021 「AICHI⇄ONLINE」、オンライン

2020 「Doubles/ Takuro Tamayama + Ikki Kobayashi、HARUKAITO by island」、BLOCK HOUSE、東京

2020 「開館 25 周年記念コレクション展 VISION Part 1 光について / 光をともして」、豊田市美術館、愛知

2020 「VOCA 展 2020」、上野の森美術館、東京

2019 「思考するドローイング」、500m 美術館、札幌

2019 「Takuro Tamayama and Tiger Tateishi」、Nonaka-Hill、ロサンゼルス / アメリカ

2019 「Euphoria」、TICK TACK、アントワープ / ベルギー

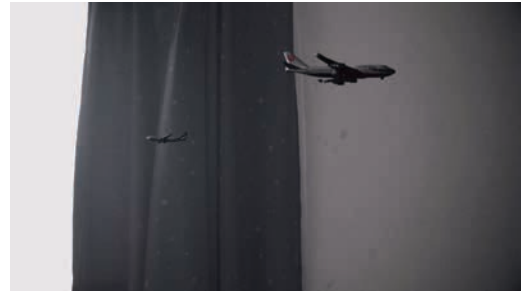
【パブリックコレクション】

高橋龍太郎コレクション

参考図版



1



2



3



4



5



6



7



8

参考図版



9



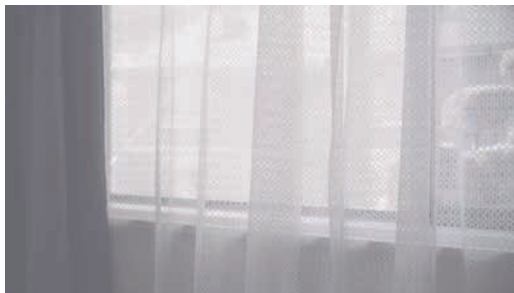
10



11



12



13



14



15



16

参考図版



17



18



19



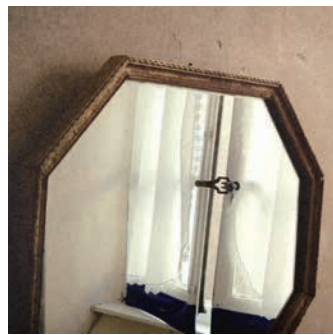
20



21



22



23



24

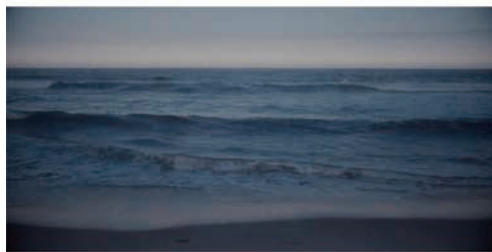
参考図版



25



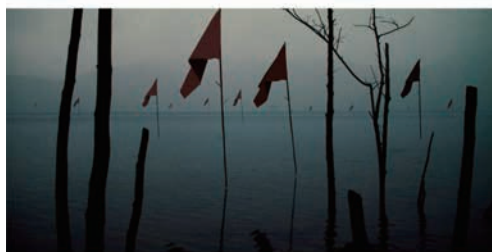
26



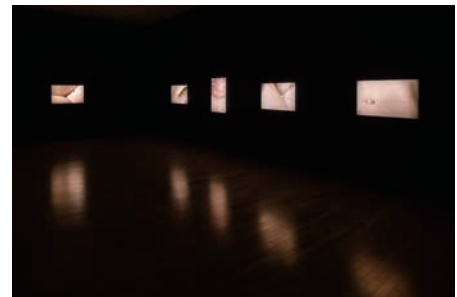
27



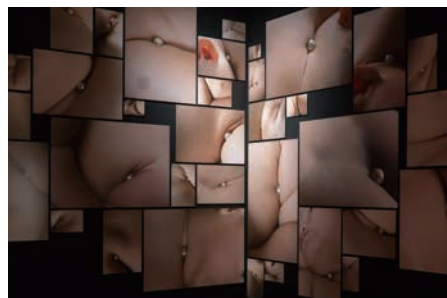
28



29



30



31



32

参考図版



33

1-13. さわひらき | 『/home』 | 2021

14-26. さわひらき | 『platter』 | 2018

27-29. さわひらき | 『we need to breathe』 | 2020

30-32. 河野愛 | 『こともの foreign object』 | 2021(photo: 麥生田兵吾)

33. 玉山拓郎 | 『Anything will slip off/If cut diagonally』 | 2021(photo : 大町晃平)